島原市報道資料

平成２６年５月１９日

報道関係者　各位

平成２５年島原市観光客動態調査について

標記の件について、平成２５年島原市観光客動態調査を調製しましたので、配布いたします。

概要につきましては、添付資料を参照ください。

記

１　島原市観光客動態調査　平成２５年（１月～１２月）

有明海にひらく湧水あふれる
火山と歴史の田園都市　島原

担当：しまばら観光おもてなし課
観光・ジオパーク班　平尾・板山
電話：0957-63-1111（内線 214）
E-mail：kanko@city.shimabara.lg.jp

差替え

平成25年の観光動向について

平成25年中における島原市の観光客数は、前年と比較し観光入込客数、宿泊客数ともに増加した。

【観光客・宿泊客数】

区　分		平成25年(人)	平成24年(人)	前年比(人)	伸び率(%)
観光入込客数		1,405,323	1,297,520	107,803	8.3
宿泊客数		198,934	186,133	12,801	6.9
島原城	入場者数	223,737	212,359	11,378	5.4
	入館者数	126,606	115,499	11,107	9.6
外国人宿泊客数		5,450	6,035	△ 585	△ 9.7
修学旅行宿泊客数		6,315	7,140	△ 825	△ 11.6
大会・会議等による宿泊者数（助成金申請分のみ）		16,867	15,501	1,366	8.8

本市における平成25年中の観光入込客数は、前年比107,803人(8.3%)、宿泊客数については12,801人(6.9%)といずれも増加した。一方、外国人宿泊客数は9.7%の減となった。これは、平成24年にジオパーク国際ユネスコ会議が開催され外国人宿泊客数が多かったためと考えられる。ただし、平成23年(5,099人)との比較では6.8%の増となる。

1. 平成25年における観光客の動向に影響を及ぼしたと考えられる要素

《マイナス要因》

○ 東日本大震災の発生から年月を経過し、修学旅行の目的地が東北地方の被災地に変更される傾向

《プラス要因》

○ 国の積極的な経済政策(アベノミクス)による景気回復基調
○ 長崎しおかぜ総文祭や長崎がんばらんば国体のプレ大会の実施
○ 芝桜公園や湧水庭園 四明荘などの観光資源の認知度向上

このような状況を考慮し、今後取り組むべき観光振興対策としては次のようなものが挙げられる。

2. 今後の観光振興対策について

○ コンベンション、スポーツ合宿などの誘致促進(フットボールセンター、体育館・弓道場の周知、PR)
○ 福岡都市圏や関西圏からの誘客強化【広告媒体(新聞・雑誌等)の活用や、誘致活動の強化】
○ 島原半島観光連盟や島原半島ジオパーク協議会との連携強化
○ 広域観光の推進
(雲仙天草観光圏協議会、有明・島原地域観光連携会議との連携強化、大牟田市との観光交流連携の推進)
○ 島原城や武家屋敷、松平七万石の歴史など本市特有の財産を活用した城下町観光の推進、並びに温泉、湧水を活用した観光の推進
○ 熊本市等との横軸連携による九州新幹線利用客の誘客対策の強化
○ 体験型・周遊型観光の推進
○ ウェブを活用した島原の魅力の発信(フェイスブック、ブログ、ツイッター)
○ 観光資源としてのジオパークの積極的な活用と、国内外のジオパークとの連携・交流促進並びに観光客の誘致